

幼保連携型認定こども園アルテ子どもと木幼保園 (東京都・中野区)

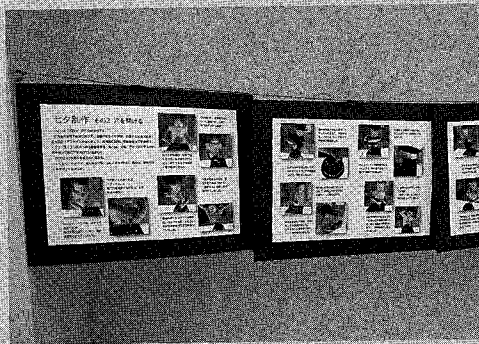
イタリアのレッジョ・エミリアの乳幼児教育は、「子どもは能力がある」という理念を基に、子どもの「言葉」に耳を傾け、一市民として尊重されるべき存在として教育の実践が展開されています。とりわけ環境を重視し、創造性を引き出す表現活動や対話を大切にしたいプロジェクト活動は特徴的で、そのプロセスを記録したドキュメンテーションといった手法はとても興味深いものでした。

歴史や文化の違いがある日本で、できることをやってみようと、まずは子どもをよく観察し、その姿を記録することから始めました。それまで見えていなかった子どもの発見や学びに気づくようになり、記録を共有することで職員の保育観も近づいていきました。そうしたなか、少人数でのプロジェクト型の活動にも少しずつ取り組み、子どもたちがどのような考えで進めていったのか、その試行錯誤の様子もすべて伝えるように意識していったのです。

アルテ子どもと木幼保園では、さまざまな刺激から感性を育むことを大切に、子どもへ語りかける環境を意図的に用意しています。その一つがアトリエです。子どもたちの発想を形にしていく空間で、協同的かつ継続的な活動が可能です。子どもたちが主体的に組み、対話しながら深い学びを生み出していきます。子どもの気づきや発見を子どもの言葉として表現活動へつなげ、過程と共に発信することで子ども理解を深めます。保護者や地域へ開かれた園としての象徴的な活動でもあります。その役割の中心を担うのが、芸術

の専任職員として在籍しているアトリエリストです。素材研究や環境設定はもちろん、子どもの興味や関心に高くアンテナを張り、イメージを形にする過程での発想や工夫、試行錯誤や葛藤を可視化していきます。

目先の成果にとらわれず、集団生活のなかで環境から学び、対話の経験を積み重ねていくことで、新しい何かを生み出すことができると考えています。そうした取り組みを年1回のアート展で公開し、保護者や地域、子どもに携わる人々へ発信しています。乳児は、遊びのなかでさまざまな素材や自然物に触れ、ものとの対話で感じたままを表現したプロセスそのものを作品として展示します。当日は親子で楽しめるワークショップ形式の造形も取り入れています。



ひとつの価値観にとらわれない独創的な発想で、未来を切り拓いていく思考力や創造力を子ども時代から鍛え、現代社会の中で多様な価値観に柔軟に対応する力を養ってほしいと願っています。

(社会福祉法人種の会 幼保連携型認定こども園アルテ子どもと木幼保園 山田寿江)